

平成25年度「みえの現場・すこいやんかトーク」（紀宝町）の概要

5月25日（土）に紀宝町の鮎田構造改善センターで「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「紀宝町自主防災組織連絡協議会の皆さん」の関係者の皆さん7名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。



【参加者からの発言】

参加者の皆さんから、以下のようなご意見をいただきました。

- 一昨年の台風では、120世帯のうち4割近くが床上浸水した。熊野川から民家の方へ川の水が流れ込んできた。電気はついたが、一番困ったのは水だった。飲み水は、しばらく谷水を利用しながら生活した。洗濯用の水や、お風呂の水もどうするか困った。
- 紀宝町の復興計画では災害に強いまちづくりを掲げている。熊野川上流にあるダムを治水ダムとして機能させるために、操作規程を変えて欲しいと副知事にも伝えている。

鮎田にあるの樋門の高さが11.4m、右岸の新宮市は13.2mある。13mまでの津波が予想されるのであれば、14mまで鮎田側にある県道をかさ上げしてほしいと思う。

洪水になる前に、ダムを下げられるようにして、時間差をつくってもらおうと浸水を免れるのではないかと思うのでお願いしておきたい。

県の災害対策本部の報告をみると、この台風12号では1億 m^3 の土石流があった。これからの災害は想定外では許されない。たくさんの土砂が流れるのであれば、是非、力を入れていただきたい。山間部の人にとっては土石流が大きな課題だと思う。台風が来る前の7月に長期間雨が続き、水田が壊滅的な状態になった。紀宝町の産業は主に水稲と林業なので、冠水対策は十分にとってほしい。

若者の子育て支援、定住対策については、地域の自主防災を担っている者も高齢になってきているので、どんどん行っていただきたい。

津波が来るから、逃げてくださいと声をかけたが、逃げてもらえなかったことも聞いた。地区によっては関心のあるところはあるが、そういう状態である。

海岸の砂浜も昔と比べて3分の1くらいになっているので、もっと早急に昔の海岸にもどしてほしいと思う。

釜石市では、小中学校の防災教育で助かったという事例もあるので、防災教育にも力をいれてやってほしい。教育機関でも防災意識を高めて、地域との両面でやってほしい。

川に土が溜まっているところが、3、4箇所ある。溜まった土砂に草が生えて、どうなるのかなというのはあるので、溜まっている土砂をなんとかしてほしい。

台風12号で護岸が崩れていて、流れる箇所が少ししかなかった。この間、浸水したのもそれが原因かなと思う。崩れたのが2年前なのに何で県は放ってあるのかというのはある。

避難路を提示してくれているが、お年寄が多いので難しいところが多い。道が狭くて人一人でいっぱいになる。車いすでも通れるようにしてほしい。避難塔もできるが、車椅子では通れない道がある。みんなが助かるのならそういうのも力を入れて欲しい。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

Jパワーの電源開発の社長に、操作規程の見直しについてお願いをしている。一定は改善してもらったが、検証をして、これからも状況をみながら話はしていきたい。かさ上げや樋門は国と和歌山県と協議しているので、どう整備をしていくかも検討している。要望が強いのは存じている。傾斜地の指定の調査についても、専門家の意見をよく聞いて対応していきたい。

防災教育は、三重県では防災ノートを小中高の児童・生徒に全員配った。そこには家族で書く欄もある。まだ、1年で浸透していないところもあるので、毎年、活用されているかチェックをしていく。

限られた財源の中で、地元（町）と熊野建設事務所でやっているが、今年は堆積土砂の予算も多めに確保している。放っているのは申し訳ないが、限られた財源の中で優先順位を付けて行っているので、役場や建設事務所に言ってもらえればと思う。やってないにしてもどういう理由か、丁寧なコミュニケーションなり、説明が重要なので、県の事務所の方にも話をしていきたい。

避難路の関係は県でもやっているなので、町ともよく相談していく。要援護者の方の避難もよく考えていかないといけない。



【紀宝町自主防災組織連絡協議会の皆さんとは】

紀宝町内の各自主防災組織相互の連携を密にし、交流と情報交換の円滑化を図るとともに日頃から地域住民の連携と防災意識の高揚に努め、さらに総体的な防災活動を強化、推進することで、災害時に迅速かつ的確な災害活動に資することを目的として、紀宝町自主防災連絡協議会を設置しています。